

第17回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同奨励賞受賞者

標記の賞では、今回より枠組を新たに学会賞と奨励賞の選考を行いました。その結果、会員の皆様より推薦いただいた候補の中から「学会賞」1件、奨励賞評価委員会からの推薦による候補者から「奨励賞」2件の授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

第17回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

受賞： 鷺見 洋一 氏（慶應義塾大学名誉教授）

『編集者デイドロ：仲間と歩く『百科全書』の森』（平凡社、2022年）の刊行に対して

授賞理由：

本書は、鷺見洋一氏の長年にわたるデイドロと『百科全書』に関する研究に基づき編まれた大著である。全九章、九百ページをもって、『百科全書』、デイドロという人間、そしてその仲間たちの姿を詳細に記述し、分類、コレクション、カタログ、編集、著作権など、ドキュメンテーションに携わる人々にとって重要なテーマを数多く含み込んでいる。

とりわけて注目すべきは、「日本人の「思想史」、「概念史」からはほぼ完全に黙殺されているに等しい『百科全書』の図版を重視する」という、著者の姿勢である。第八章「図版の世界」および第九章「身体知のなかの図版」では、著者自身の図版の解読の試みを通して、図版の研究およびドキュメンテーションの方法を明確に示し、ドキュメンテーションの世界の芳醇さを力強く伝えている。

加えて、本書の刊行の背後には、著者のデジタル・メディアを巡る実践があることも忘れてはならない。著者は、慶應義塾大学SFC研究所ならびにアート・センターなどにおいて、早期からデジタル・メディアを用いた研究に取り組んできた。なかでも、2008年から2018年までに進めたプロジェクトでは、『百科全書』の各項目で明示的に記されている出典情報をすべて収集し、メタデータとして整理するという膨大な作業に取り組み、国際的にも大きな評価を得た。

著者はあとがきにおいて、『百科全書』に対峙するにあたり、「方法や手段はどこまでも多様で多面的なもの」であり、また「なによりも研究者の側に、そのように多彩で混沌とした「知の集成」、超巨大な対象と向かい合ったときの、心のときめきというか、新鮮な驚きやちょっとした恐怖心のようなものがないといけない」と述べている。この言葉は、ドキュメンテーションという方法を携えて、多彩で混沌としたアートの世界に向き合い続けようとする、私たちアート・ドキュメンテーションの仲間たちを初心に返らせ、鼓舞するものである。

以上の成果を評価し、第17回野上紘子アート・ドキュメンテーション学会賞を授与する。

【学会賞の概要】

以下a)、b)、c)のいずれかに該当するものを選出する。対象は会員に限らない。

a) Museum、Library、Archivesをはじめとするアート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関。

b) アート・ドキュメンテーション分野の振興発展に寄与した功績が認められる者、あるいは機関。

c) アート・ドキュメンテーションに関わる論文・記事(学会誌『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』への掲載に限らない)、図書、展覧会、データベース、ウェブサイト等のなかから優れたもの。対象となる論文・記事、図書、展覧会は、受賞年の前年度を含む過去3年間に発表されたものとする。

第17回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション奨励賞

受賞： 三島 大暉 氏（宮内庁三の丸尚蔵館）

研究論文「ソーシャルメディアを用いた収藏品カテゴリの抽出とその性質」（『アート・ドキュメンテーション研究』第30号、2022年）に対して

授賞理由：

三島氏は本論文において、博物館収藏品データベース検索の際に必要なボキャブラリーの課題を乗り越えるため、ソーシャルタギングやフォークソノミーの方法論に基づく研究を行い、その成果と課題を提示した。海外の動向への目配りを含めて論文の構成としてまとまっている点に加え、新しい研究手法に挑戦し、成果を上げている点が高く評価できる。アート・ドキュメンテーションにかかわる新たな領域の開拓について、今後の一層の活躍に期待し、奨励賞を授与する。

受賞： 松崎 博子 氏（就実大学人文科学部総合歴史学科）

事例報告「大学図書館における発掘調査報告書整理作業と「全国遺跡報告総覧」の活用について—私設博物館寄贈の資料整理作業を事例として」（『アート・ドキュメンテーション研究』第30号、2022年）に対して

授賞理由：

松崎氏は、黒瀬知子氏との共著による本事例報告において、私設博物館旧蔵の考古関係資料の整理について、中断されていた活動を大学図書館で救い上げた実践活動を提示した。資料整理に有用なデータベースの具体的な活用事例も含め、同様ないし類似する課題に直面する各機関に対し、ひとつの模範を示したものと評価できる。また、MLA連携をはじめ、文化領域に携わる各機関等の連携の推進を目的に掲げる当学会の活動にも大きく寄与する事例報告をまとめ上げたことを評価し、奨励賞を授与する。

【奨励賞の概要】

アート・ドキュメンテーション分野の発展における将来の貢献を奨励するため、本会が主催する研究発表会、シンポジウム、セミナー、ポスターセッション、活動紹介等で発表した登壇者、および『アート・ドキュメンテーション研究』に掲載された論文・記事の著者のなかから優れたものを選出する。対象は会員に限り、受賞年の前年度に発表、刊行されたものとする。